

東北放射光施設 建設地選定諮問委員会（第2回） 議事概要

一般財団法人光科学イノベーションセンター事務局

I. 日時：平成29年2月25日（土）13時00分～15時45分

II. 場所：一般社団法人東北経済連合会東京事務所内会議室

III. 出席委員数：諮問委員7名、専門委員1名（欠席なし）

IV. 議事次第

1. 各審査項目に関する審査
2. 今後の審査の進め方について

V. 議事概要

1. 各審査項目に関する審査

平成27年6月東北放射光推進会議「第三者委員会」報告書における各種データならびに、各候補地から、新たに提出された追加情報※を踏まえ、審査項目ごとに意見交換ならびに審査を行った。（未確認の情報ならびに、未提出の候補地からの追加情報については、後日審査を行うこととした）

※審査項目を踏まえての候補地からの追加情報（参考）

- ・宮城県宮城郡松島町：最新情報一式
- ・宮城県黒川郡大郷町：最新情報一式
- ・青森県むつ小川原地区：周辺地域 施設パンフレット
- ・宮城県伊具郡丸森町：後日提出予定
- ・東北大学（青葉山新キャンパス）：同サイト内の用地再検討に関する情報

2. 今後の審査の進め方について

今後の審査の進め方について意見交換を行い、以下のとおり決定した。

- (1) 第3回諮問委員会を、3月中に開催すること。
- (2) 第3回は仙台で開催し、各候補地からのヒアリング、現地視察を行うこと。
- (3) ヒアリング、現地視察の方法については、第2回の評価結果ならびに開催日程と合わせて、後日決定すること。

V. 委員からの主なコメント（各候補地の個別評価に関するコメントは除く）

1. 各審査項目に関する審査

審査項目① 地盤と敷地について

- ・ ナノビームが安定的に使用できる地盤が重要である。
- ・ 造成後のリバウンド（隆起・沈降）を考慮すると、大量の掘削または、盛り土を行うことは、かえって安定的な地盤を維持できない可能性があることから、原地形の特性を十分に考慮しなければならない。
- ・ 将来的な施設の拡張への対応（ビームラインの延長など）エリアがあるかどうかも検討の必要がある。

審査項目⑥ 工期（平成 30 年度着工、平成 32 年度竣工）

- ・ 平成 30 年度着工可能か否かについては、書面だけでは判断が難しい。
当委員会では、敷地の造成に関し、どの程度のコストや期間を要するかを確認すべきである。

審査項目② アクセスについて

- ・ 現地までの所要時間だけではなく、日中の公共交通機関の有無・本数も確認しなければならない。研究者はいつ帰るか、また、いつ現地に呼び出されるか分からない。行き帰りの時間を気にする必要のない施設でないと、企業としての利用が進まないのではないか。
- ・ 研究者が手ぶらで、現地へ向かうイメージのほか、研究に必要な機材や設備を大型トラックで搬入するような場合、道路が整備されているのか、整備計画があるのかを確認する必要がある。
- ・ 一般企業では、研究者のレンタカー使用については事故の可能性を考慮すると許可するケースは少ないのではないか。タクシー利用についても、担当者クラスでは利用が難しい会社が多いと思われる。

審査項目③ 研究機関、産業の集積・連携の現状と今後の可能性

審査項目④ 資金調達を始めとする事業の実現性

審査項目⑤ 候補地自治体等からの協力

審査項目⑦ 地方創生について

- ・ ユーザー支援の視点から、研究者が周辺に集積していることが産業利用にとっては重要である。企業と研究者が Face to Face で連携できる仕組みや、施設運営のマネジメント方法については十分に検討すべきである。
- ・ 最新情報が全て揃っていない状況や、提出資料の内容を踏まえると、特に審査項目③④⑤⑦については、ヒアリングを行い、直接候補地の考え方を確認するほうがよいのではないか。

2. 今後の審査の進め方について

- 現地視察は必要である。
- ヒアリングは、ある程度候補地の数を絞って行ってもよいのではないか。
- ヒアリングを希望される候補地の意見は聞くべきである。

以 上